

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 友野晴夫

1. 概 要

歩行名称	四国 6
歩行区間詳細	スタート地点: 安和駅(高知県須崎市)
	ゴール地点: 一切分岐バス停(高知県幡多郡大月町)
実施期間	2022/11/8-11/13 (5 日+観光 1 日)
全歩行距離	200.2Km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏 名	年齢	歩行日数	備 考
1	リーダー	友野晴夫	68	5	A 班
2	記録・車両関係	森正昭		4	B 班
3	会計	水野源吾		3	B 班
4		曾根清		3	B 班
5					

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備 考
1	11/8	安和駅～矢井賀	20.4Km	友野	単独歩行
2	11/9	矢井賀～土佐白浜	43.0Km	友野 + 森	分割歩行
3	11/10	土佐白浜～久百々	50.4Km	A + B	分割歩行
4	11/11	久百々～中ノ浜峠	34.2Km	A + B	分割歩行+観光
5	11/12	中ノ浜峠～一切分岐バス停	52.2Km	A + B	分割歩行
6	11/13	雨のため歩行中止			観光
7					



全行程の地図

4. 参加費

1)参加者延べ日数: (1人×5日)+(1人×4日)+(2人×3日)=15日

参加費合計: 15日×100円=1500円

2)往復交通費は各負担

3) 共通会計 (レンタカー代、宿泊代、食費等)

・ 預かり 1人4万円×4人=16万円

・ 出金	車	ニッポンレンタカー	5日	38720円
	車	ガソリン		5210円
	車	高速道路		760円
	宿	ホテルニュー白浜	9日	28300円
	宿	ホテル南国	10、11日	35640円
	宿	ホテルマツヤ 宿毛	12日	16800円
	観光	足摺海底館		3600円
	観光	ジョン万次郎資料館	3名	1320円
	昼食	宗田節 たけまさ商店		6400円
	昼食	うなぎ 炭や一風 中村		7920円
	合計			144670円
	一人当たり			36167円
	預かり金との差			3833円

※ 支払いの中に、地域クーポン分が一部入っています

5. 歩行の詳細

11/7 (前日)

2215 友野が横浜駅から夜行バスで出発、9800円

11/8、安和駅～矢井賀、20.4Km



910-953 夜行バスにて高知駅着、JR に乗り換え、特急で須崎駅、1400円

1030-1043 須崎駅でバスに乗り換え、320 円

1100 安和バス停より歩行開始、天気は快晴



いきなり美しい浜辺の海岸、国道から外れているため車が少なくて歩きやすい

1200 青木崎、きれいな海岸線が続く



1315 土佐久礼、コンビニで今晚と明日の食料を買う（宿泊地は食事が出ないため）

峠を越える登り下りあり

1405 笹場バス停

1450 上の加江



ここからも最後の峠越えの上り下りがあり、体は少々きつい

矢賀海岸へ出ると海がきれいではっきりとする

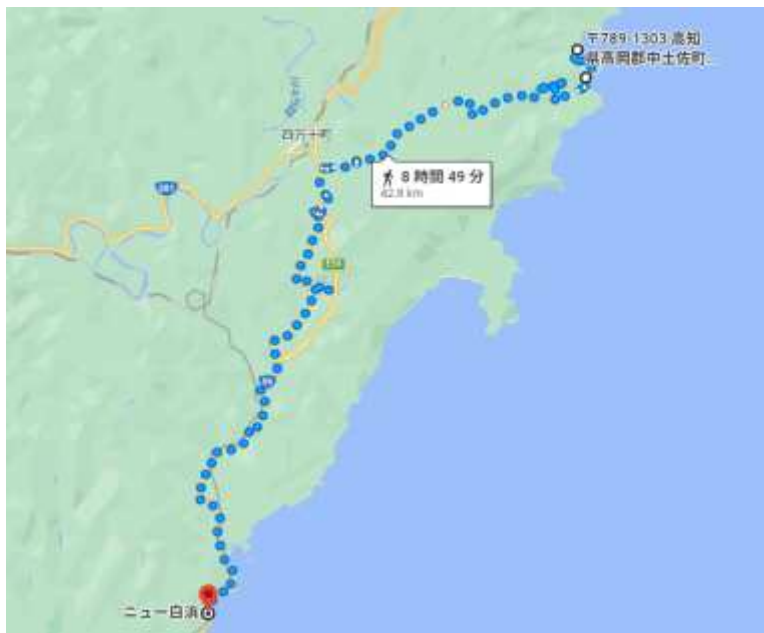
1610 矢賀井、ゲストハウスおやまどり、素泊 3000 円の到着、歩行終了

当ゲストハウスは、宿泊客は私一人で一軒家を一人占め、広い畳の民家でぐっすり寝る



10/9、矢井賀～土佐白浜、43Km

(友野: 矢井賀～荷稻駅、31.1Km、 森: 荷稻駅～土佐白浜、11.9Km)



610 矢賀井、歩行開始、今日も天気は快晴

夜明けとともに歩き出す、朝日のさす海岸が綺麗だ



715 志和、町の小学生がスクールバスで通う姿が見える

ここからうねうねと登りのバス通りが長く続く

850 志和峠、登りがきつかった



登りつくと平らな台地で畑の農家が多い

1010 黒石、きれいな田園風景

1100 見附、家が多くなってくる

1135-1200 窪川、ローソン

森さんが朝、羽田空港を立ち、高知空港からレンタカーで合流

今日の車のデポ地の確認をする、森さんは車で先に行く

1300 峰の上、遍路道に入る、遍路道は山道で車道を歩くより直線的である



1345 山を下る感じで遍路道を終わる

国道をしばらく歩く

1450 八坂神社（荷稻駅近く）、レンタカー拾う、歩行終了

友野はレンタカーで民宿ニュー白浜、2食付 6500 円 に先に到着する

森、八坂神社（荷稻駅近く）～ニュー白浜を歩行

羽田発/ANA561 7:55→高知空港着/9:25、JAL 便で先発していた、水野さん・曽根さんとここで合流の計画だったが、予定の便に乗り遅れの連絡あり。彼らは列車で宿へ向かうとのこと。

10:00 レンタカーを確保し、森1人で、落合う予定の四万十町/窪川方面へ向かう。

11:45 友野さんとローソン駐車場で合流、歩行ルートや車のキーの受け渡しなど打合せ。
四万十川・若井の沈下橋を見て、車のデポ地点へ向かう。



13:00 八坂神社（荷稻駅近く）に車をデポしたのち、出発



14:05 56号線を歩き、一野々川のお遍路さん休憩所で一服。



青空の下、車はそう多くない。お遍路さんとも出会わず。

15:35 黒潮町は、カツオ漁とホエールウォッチが町の売り。土佐佐賀の街に入り、散歩中の年配女性と雑談。
昔は漁師街だったが今では、土建業が多くなったとのこと。

16:30 民宿・ニュー白浜着。歩行時間/3 時間 20 分、歩行距離/12.1km

宿の前は岩だらけの海岸、「白浜」はどこに行ったのか？ 宿のお母さんは「30 年前はこうだったよ」と、白砂の砂浜の写真を見せてくれた。沖合で砂の採取をしていたため、砂浜が無くなってしまったと嘆いていた。

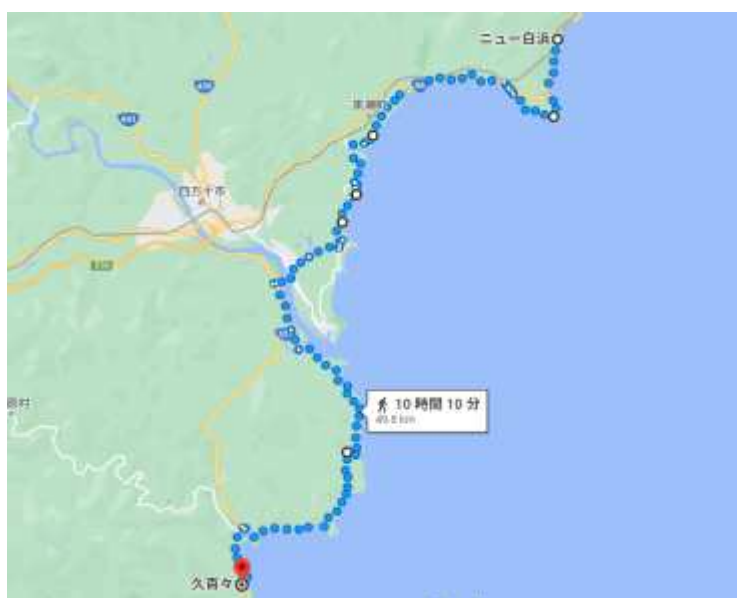
1530 民宿ニュー白浜、目の前が海岸の絶景地

19 時に今日の午後の羽田発便で高知に到着し、電車でここまで来た水野さん、曽根さんと合流する
夕食時にお互いに自己紹介し、明日からの歩行予定の確認をする



10/10、土佐白浜～久百々、50.4Km

(B: 土佐白浜～田野浦、17.6Km、 A: 田野浦～久百々、32.8km)



(B 班の記録・森記載)

2 組のお遍路さんと同宿だった。彼らは食事の関係から先に出発。友野さんは、我々が寝ている早朝に出発。30km を歩行するようだ。



7:55 宿のお母さんの見送りを受け、曾根さん、水野さん、森の3人で出発。同行の2人は、海岸線を歩く旅に初参加56号を離れ、海沿いの伊ノ岬灯台ルートを歩く。潮騒と小鳥の声。

8:50 伊ノ岬

閉校となった「井田小学校」、今は地域のボランティア活動の拠点となっていた。この付近の男たちはみな船乗り。

10:00 土佐川口、人家があるところでは、津波対策としての避難ルートが表示されている。



暗いときも考慮したソーラーパネル付き。四万十くろしおラインを1輛きりのディーゼルカーが走って行った。

11:10~12:10 道の駅ビオスでゆったりシラスのかき揚げ丼の昼食、連れの2人は、余裕でビールを。

土佐西南大規模公園は、美しい砂浜と松林が続く。大きな荷物を持ったお遍路さんと出会う。年のころ60歳、今日で15日目、88カ所の完歩を目指しているという



講演で、同年輩の人たちがパークゴルフに興じており、元気な姿になんとかほっとする。

砂地に細いネギのような畑が続く。農作業中の女性に聞くと、ラッキョウだそうで、4月に収穫の由

13:25 公園球技場脇で休憩、蛸瀬川を渡ると田野浦はもうすぐ。

14:00 田野浦漁港の駐車場で、デポしてあった車、ネコたちが番をしてくれていた。



歩行時間/6 時間、歩行距離/18km

3人で乗車、321号でゴールの久百々へ。先行する友野さんは海岸沿いの道を歩いているはず。

14:30 民宿・久百々の前に到着、友野さんはまだだったので、逆方向へ歩行し友野さんとお会う。

610 A班、友野は民宿を車で出発

645 田野浦漁港、車デポ、歩行開始

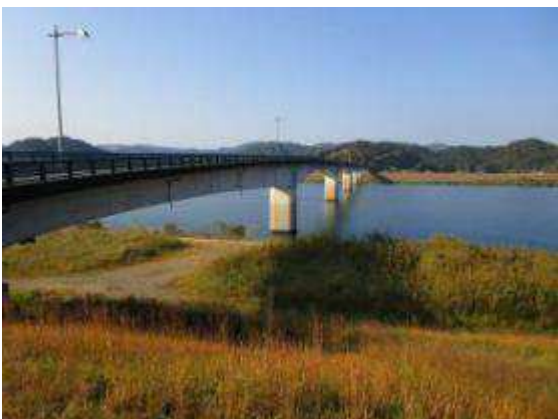


745 平野ビーチ

この辺はサーファー向けの海岸がある

845 四万十大橋、ローソン、コーヒータイム

四万十川の河口を渡る



950 四万十川河口

きれいな海岸が続く



1105 大焼崎

内陸の大地をずっと歩く

1200 立石の橋

1345 布浦漁港

やや大きめの漁港、ダイビングなどを楽しんでいる人も見かける



ちりめんじゃこの乾燥風景を見る

1445 下の加江、コンビニで休憩

若いデンマーク人女性のお遍路さんと出会う、自己紹介してお互いに歩行状況を伝え、健闘を称えあう



1520 久百々の手前で森さんと合流、歩行終了

合流地点から車で竜串のホテル南国へ行き、ここで2泊する



この宿はコロナ旅行支援をやっているため割安、しかもクーポンも貰える

1泊目、3630円（定食）+クーポン3000円、2泊目、5280円（特別料理）+クーポン3000円

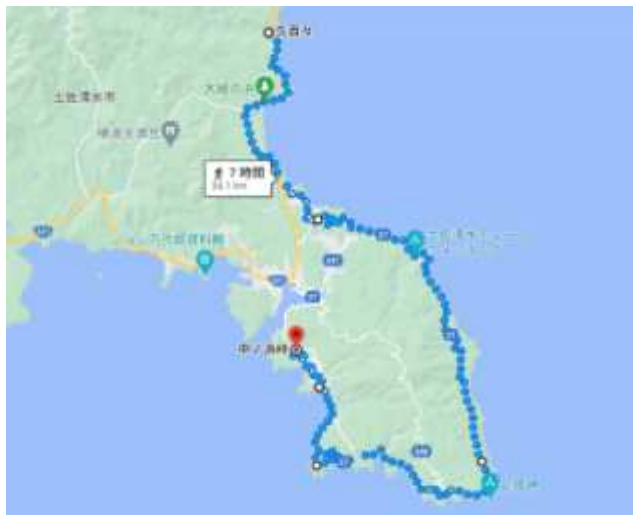
近くの酒屋でクーポンでビール&つまみを大量に買い、部屋の冷蔵庫に保管

夕食後に宴会して盛り上がる



10/11、久百々～中ノ浜峠、34.2km

(A: 久百々～足摺岬、21.6Km、B: 足摺岬～中ノ浜峠、12.6Km)



810 全員でホテル南国、車で出発、天気は晴れ

835 昨日のゴール地点の久百々で友野が下車

A 班、友野は久百々から歩行開始

しばらくは国道のカーブの多い、朝なので交通量の多い道を進む



905 以布利港、夫婦の遍路2組と会う

国道から離れて足摺岬に向かう東海岸に行く

途中に遍路道がある、お遍路さんへの接待があり、柿とミカンを頂く



1020 窪津漁港

台湾人の女性お遍路さんと出会い話をする



追いつ追われつで1~2時間一緒に歩いたり休憩したりする

一緒に綺麗な海を眺める



1125 津呂

海岸から離れて大地を歩く

向かいからフランス人の男性お遍路さんと話す、健闘を称えあう



1220 足摺岬で歩行終了

駐車場の車を拾い、B 班を迎えに行く



1250 中ノ浜峠バス停、B 班と合流

B 班、足摺岬～中ノ浜峠を歩行（森さんの記録）

8:30 足摺岬・金剛福寺駐車場へ車をデポ。

海に向かって立つ大きな像は坂本龍馬と思っていたら、中浜万次郎像。



348 号線を離れて海沿いの集落の中を歩く。立ち話中の 2 人の女性と雑談。1 人は横須賀の高校に行っていたという。父親から「こんな田舎では視野が狭くなるから」と背中を押され、行ったそう。連れ合いは、船員だった。



9:30 松尾 散歩中の 70 代の男性が、海沿いを道案内してくれる。駒澤大学卒業、その後中学教師、今は郷土史を編纂
本道に出るところで、工場があり覗くとソーダカツオの工場だった。写真を撮らせてもらう。



11:30 大浜から 27 号を離れ中浜集落へ、ジョン万次郎生家を見学。堤防に彼の生涯を描いた絵が 20 点近く。
波乱万丈の生涯にがぜん興味がわいた。



12:30 中ノ浜峠で、友野さんの車と合流。歩行時間/4 時間、歩行距離/12km

1330 中ノ浜峠の宗田鯉の店でかつお節ランチで食事



店の女主人と一緒に写真を撮る、クーポンで土産を買う
店の若奥様とインスタ ID を交換する

1400 金剛福寺

友野は般若心教を唱えてお参りする



またデンマーク人女性のお遍路さんと再会する、お互い仏教の話題、学んできた事など話し交流を深める
彼女はデンマークで仏教を 7 年勉強、四国 88 か所を全部徒歩で歩く

般若心教は半分できる、友野と同じ数珠を持っている



1500 足摺岬観光

岬まで徒歩5分、全員写真を撮る



1600、竜串の先の海底館で海底見学、魚を豊富にみる事が出来て感激する



10/12、中ノ浜峠～一切分岐バス停、52.2km

(B: 中ノ浜峠～下川口漁港、18.4Km、B: 下川口漁港～一切分岐、33.8Km)



710 ホテル南国を車で出発、天気は曇り



740 中ノ浜峠で森さんチームを降ろす

B 班、中ノ浜峠～下川口漁港を歩行（森さんの記録）

7:40 中ノ浜峠を 3 人で出発、土佐清水の入り江に沿って進む。天気良好、入江は波も穏やかな天然の良港
今回の海岸線一の大きな町だが、土曜日とあってか商店街は人通りは少ない。

9:50～10:35 ジョン万次郎資料館見学、まさに波乱万丈の一生、幕末から明治にかけ大きな貢献をしたことを再認識した。
土佐清水中浜の生まれ、14 歳で漁に出て遭難、鳥島に漂着しアメリカの捕鯨船に助けられる。その後船長の養子
となりアメリカの教育を受け、英語に始まり航海術、測量術学び、幕末に帰国後、坂本龍馬、岩崎弥太郎、勝海舟
らに影響を与えると共に、日米交渉などで重要な役割を果たしたと有った。
その歴史的な貢献は、同じく土佐出身の坂本龍馬を越えていたように思う。

12:15～13:20 サニーロード/351 号線を進み、竜串町の手前の道の駅付近で昼食とした。

ここまでの海岸線一帯は、昭和 21 年の南海同地震により隆起した海岸が海蝕を受け「化石漣痕」と呼ばれる
地形となっている。



一団の小学生と出会った。廃校となった小学校ばかり見てきたので、無性にうれしくついお話してしまった。
土佐清水市立みさき小学校、全校 41 人、1・2 は単独だが、それ以上は複式学級とのこと。ここでも、Chromebook
PC が一人 1 台で使われていた。森は川崎市内の小学校で、PC 活用ボランティアをやっているため、つい聞いてみ
た。おおらかで元気な子どもたちだった。



2 泊した「ホテル南国」の前を通過。3000 円/日の地域振興券が有難かった。

14:30 下川口漁港の駐車場着、歩行時間/7 時間、歩行距離 18.4km

3 人とも足にはマメが出来ず、まだまだ歩けそう。

321 号を今日のゴール/栢島に向かう。友野さんは、海岸線や山道の難所を歩いているはず。

15:30 友野さんと我々合流。

810 A 班友野は、下川口漁港に車をデポし歩行開始

美しい海岸線で平らな歩きやすい道を歩く



900 貝の川港

入り江の郵便局前で腰を下ろして休む

1000 小才角、おにぎりと天ぷら

昨日の夕飯で食べきれなかった天ぷらを食べる



1100 大浦、峠越えあり

国道を外れてうねうねの山道に入る、車もほとんど通らない静かな車道に行く



サンゴ取りの少女の銅像を見る

1230 赤泊、峠越えあり



四国番外霊場の月山神社をお参りする

内陸道から海岸に出る

1310 西泊

穴の開いた岩のある景勝地を見る



1400 周防形

ここから再びバス道に出る

1500 頭集 (かしらつどい)

1530 頭集港、森さんの車と合流し、2 チームで対抗方向に歩く

1540 一切分岐バス停（ゴール地点）

ここが今回のゴール地点となる、展望台から次回に行く予定の柏島を見る



友野はゴール地点から長いトンネルを逆方向に歩く

1610 トンネル出口で森さんチームと合流、歩行終了

車で途中、道の駅で土産を買い、今日の宿泊地に向かう

1700 宿毛、ホテルマツヤ 2食付、4200円+クーポン1000円

10/13、四国霊場と四万十市の観光

朝から雨のため歩行は中止する

820 ホテルから車で出発

宿毛の近くにある大島を一周ドライブする

1000 ごろ 40 番、愛南町にある観自在寺を参拝

お寺のお坊さんと話をし、般若心経を唱える



39 番、延命寺を参拝

般若心経を唱える、ドイツ人の男性お遍路さんといろいろと話をする



1200 ごろ 四万十市、四万十博物館

天守閣風の建物で展望台がある



四万十川の風物、産業、歴史等々を学ぶ

1300 ごろ うなぎ屋で昼食

帰りのパーキングで足摺岬をバックに写真を撮る



高速を道路を使って高知へ帰る

1530 高知市内で解散

森さんはレンタカーを空港に返し、ひと先に帰る

残り3名は、高知駅前の庄屋で打ち上げ飲み会をし、土佐のお酒を飲み盛り上がる



友野は夜行バスで帰る

水野さん、曽根さんは高知で1泊して翌日に帰る

6、感想

1) 水野源吾「高知6歩き」

森正昭(9期)さんから声を掛けてもらい、日本の海岸線を歩く旅・「四国6」に参加し、3日間約50kmを歩きました。舗装道の長い距離を歩くのは初めて。靴を新しくし、足慣らしをして出かけました。好天に恵まれ、歩き通すことができました。

初日は土佐白浜の宿まで。高知空港到着後、JR高知駅発17時10分、特急あしずり9号

2両編成に乗り、窪川で各駅停車に乗換え、土佐白浜着19時04分。2人が下りて乗客は0人に。この日の最終列車！列車の宿毛着20時14分、このまま乗客なしで走るのかと、心配。

駅のホームから、ヘッドランプを点けて階段を下り徒歩10分、宿の前は海のはずだけど、海に気づかず。夕食を待ってもらっていた2人と合流、友野さんと挨拶、初対面。

翌朝、部屋のカーテンを開けた。目の前の海に、ちょうど朝日が。太平洋に陽が昇るぞ！

海の向こうはアメリカ大陸だぞー！と、なぜか、うれしくなった。

この日から、左手に太平洋をずっと見ての歩きが始まった。

2015年、車で四国札所巡りをした。車だと道幅広く、舗装して走りやすくて道、“新道”を時速60kmで走る。地元の人と話ができない。海の景色も見えない。今回は、“海岸線を”、“歩く”。

車が“新道”に移った分、“旧道”は静かになり、生活がしやすくなったかも。

集落に入ると、庭先に洗濯の干し物、畑を耕す人、柿がなり、足を止めて話すことも。

出会った87歳女性は、「嫁にきたときは、何もない所で、抜け出したかった。今は、周囲の人がいい、生活もしやすい、こんないいところはない、満足している」と元気に話してくれた。

別れ際、こちら3人は81、80、80歳とトシを明かしたら、あきれていた。

海岸沿いの曲りくねり、ゆるい登り下りの道を、歩く。道路を覆うように樹木が茂り、小鳥の鳴き声が聞こえ、サル家族も道に出ている。木のすきまから、海が青く、登り坂でかいた汗を、海風がなぜていく。

この期間、「全国旅行支援」が適用され、①宿代は40%引き、②1泊すると地域クーポン3000円(平日)支給、翌日中に使いきることが条件。③高知への交通費として最大5000円の支援がついた。②は使わないで失効は“もったいない”。どう使うか、毎日頭がいっぱいになった。合計支援額約17000円。うれしいような、そうでないような、へんな気分。

③の申請書類7枚をそろえ郵便投函。20日経って、振り込まれていない。

友野さん、森さんに、計画から、この報告まで、世話になりました。

計画は何度も書き直して精度を上げ、歩き終わったら報告書に残す。TMUWV OB会ホームページ、初めて開きました。中身が濃いですね。日本一周にはもう少し時間がかかります。無事達成されますようお祈りします。

2) 森 正昭

当然ながら、海を見ながらの旅だった。足摺岬までは出入りの少ない海岸線だったが、土佐清水では典型的なリアス式海岸となり、対岸を眺めながらゆったりと歩いた。青い海と潮騒、時々出てくる家並みと人々の生活ぶりを見ることができた。ここではゆったりと時間が流れていた。

これも友野さんが30kmを歩いくとき、我々は15~20kmと設定してくれたおかげだった。

筋肉痛になることもなく、人と出会えばおしゃべりしたり、写真を撮ったりという近來にない余裕の旅だった

地元の女性たちによると、この一帯の男性たちの生業は、貨物船、遠洋に出かけるカツオ漁船、近海の漁船などの船乗りだったようだ。

ところどころで閉校となった小学校を何校か見た。遠洋漁業が低迷してくるとともに、人口が減ってきて、働き手が都会に出て行った結果だったのだろう。途中で出会った子どもたちが、無性にかわいく、彼らに高知の将来を期待してしまった。

土佐というと幕末期の坂本龍馬がすぐに出てくる。ところがジョン万次郎資料館をみて、彼の数奇な運命と活動の軌跡から、歴史を動かした一人だったことを学んだ。

お遍路さんと時々出会い、また宿でも一緒になった。外国から来る人々が多かったのにも驚いた。デンマークから来た女性は、事前に真言宗の学習をしてきており、一度に88カ所の札所を回るのだという。私自身が気づいていない何かを求めての旅なのであろう。今回は、二人の山仲間、水野源吾さんと曾根清さんを誘ったが、彼らも足を痛めることもなく歩いていた。どんなことを感じたか、次の機会があればまた参加するとか、そのうちゆっくり聞くことにしよう。

7、動画集

四国 6-1

<https://youtu.be/1DtG8Aib8b4>

四国 6-2

<https://youtu.be/81S15XoMKa8>

四国 6-3

<https://youtu.be/H8osoquqVBo>